

中川町地域おこし協力隊

／ 特別号 ／

Local Crew Magazine

N
A
K
A
G
A
W
A
T
O
W
N



中川町での暮らしと活動—

地域とともに歩む毎日。

2026 / vol.2

02

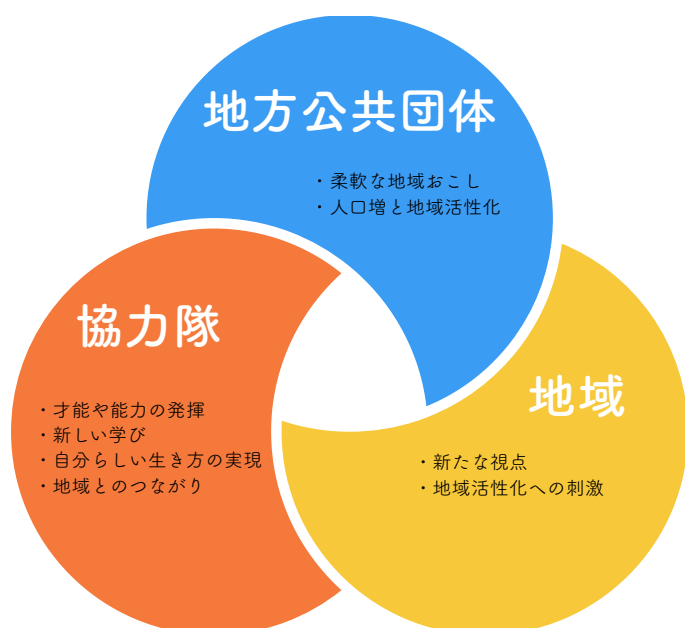
・ ト吉平和豊志川宮渡橋田反中伊中出水村オウ木鈴反
部川塚泉嶋村島川辺爪辺中村東井水村ウ木中
悠淑映竣め晋源幸隼啓信梨直淳新知吏ゴ謙祐
人子子也ぐ平徒史矢吾彦奈弘一美智セン友介

地域おこし協力隊とは？



一定期間、地域に居住しながら、地域ブランドや地場製品の開発・販売・PRといった地域おこしの支援活動や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」に携わり、その地域への定住・定着を目指す取り組みです。

地域おこし協力隊になるためには、都市部から過疎地域などの特定地域へ転居することなど、一定の条件が存在します。



関連制度：

おためし地域おこし協力隊

地域おこし協力隊インターン

地域おこし協力隊アドバイザー



総務省「地域おこし協力隊ナビ」ページ

中川町 3種類の委嘱型



任用型

役場の会計年度任用職員として雇用され、配属された課の業務の範囲で活動します。

町が委嘱し、町との雇用契約を結んでいただくため、各種手当や社会保障がある代わりに終業時間内の副業は制限されます。

委託型（課題解決型）

受入事業者による研修や活動支援を受けながら、二次創業や新規事業の展開等を図ることにより、地域課題を解決します。

町が委嘱し、町が委託する受入事業者と雇用契約を結んでいただきます。

委託型（起業型）

「中川町を舞台に新たな価値（暮らしや経済）を作り出す起業家」として選考。町が委嘱しますが、雇用契約は結ばずに活動していただけます。



中川町の地域おこし協力隊の現状

令和8年3月31日現在、中川町で活動している地域おこし協力隊は18名います。

令和5年（2023年）度委嘱・・・6名

- ・鈴木 謙友 ・オウ ゴセン ・中村 吏智
- ・出水 知美 ・伊東 淳一 ・中村 直弘
- ※反中 祐介は令和8年3月31日で任期満了につき卒業
- ※中井 新は令和8年3月31日で退任

令和6年（2024年）度委嘱・・・6名

- ・反中 梨奈 ・田辺 信彦 ・橋爪 啓吾 ・宮川 幸史
- ・川島 源徒 ・志村 晋平
- ※渡辺 隼矢は令和8年3月31日で退任

令和7年（2025年）度委嘱・・・6名

- ・豊嶋 めぐみ ・和泉 竣也 ・平塚 映子 ・吉川 淑子
- ・卜部 悠人 ・佐々木 樹（令和8年2月2日 着任）

協力隊特別号を創刊した理由

今までは広報ナカガワの誌面で地域おこし協力隊1人つき、写真1枚と50文字程度で活動を報告していました。しかし、それでは地域おこし協力隊一人一人の詳しい活動内容が町民のみなさんにお伝えしきれないという問題がありました。

それを解決するために、地域おこし協力隊の活動報告のみを掲載した広報ナカガワの特別号を作ることになりました。一人あたりの記事量を大幅に増やして、より町民のみなさんが興味を持っていただけるように細かい活動報告をお伝えできるようにと思っています。

なお、この地域おこし協力隊特別号は、3ヶ月に1度発行の季刊号として発行していく予定です。



・変更前



・変更後

協力隊からのお知らせ！！

中川町地域おこし協力隊による第3回活動大報告会を開催します！

中川町で活躍する地域おこし協力隊員たちが日々取り組んでいる活動を直接見て、聞いて、語り合える特別な一日。地域づくりに関心のある方、移住を考えている方、協力隊制度について知りたい方、どなたでもお気軽にご参加ください。

※当日参加可

第3回中川町地域おこし協力隊 活動大報告会 令和8年4月4日（土）

中川町生涯学習センター ちゃいむアリーナ 098-2802
北海道中川郡中川町中川217-2

中川町地域おこし協力隊による、一年の活動成果を共有する報告会です。観光振興、情報発信、地域づくりなど、隊員たちが町の中で見つけた魅力や取り組みをブース形式でご紹介します。町民の皆様、移住に関心のある方、どなたでもお気軽にご来場ください。展示や会話を通じて、中川町の「今」と「これから」を一緒に体感しましょう。

イベントスケジュール

※事前予約制 ※参加費無料 ※当日参加可能です



12:30~13:00	受付	14:40~14:50	休憩
13:00~13:20	開会式・協力隊紹介	14:50~15:20	トークイベント③
13:30~14:00	トークイベント①	15:20~15:30	準備・移動
14:00~14:10	休憩	15:30~17:00	企画ブース
14:10~14:40	トークイベント②	17:00~17:10	閉会式

会場案内MAP



トークイベント①和泉竣也

「なぜ今、中川町なのか」ー 癒やし×文化財で描く

『ナカガワツーリズム』の可能性ー

トークイベント②田辺信彦

中川を拠点にする写真家の活動と飲食事業の展開

トークイベント③平塚映子

かつての木工所跡地を地域の居場所へ再生

～木と人の温もりを感じるまちの喫茶店を目指して～

企画ブース番号

- ①反中祐介～中川町×スポーツの取り組み/鈴木謙友～アウトドアを起点とした多角的な活動
- ②橋爪淑子～ナカガワのナカガワ(東京サテライトショップ)活性化の仕組みづくり。
- ③ト部悠人～食肉(ジビエ)処理施設の開設を目指して
- ④平塚映子～昭和の風を吹き込む、中川町の新たな憩いの居場所づくり
- ⑤中村直弘～中川町でのDIYの取り組み
- ⑥橋爪啓吾～TeshioNakagawa Vacation House の様子やDIYの様子
- ⑦田辺信彦～中川町を拠点とした写真家の活動の発表
- ⑧中村吏智～生乳生産現場から乳製品ができるまで/出水知美～チーズ
- ⑨伊東じゅんいち～北海道一道北地方～中川町の魅力を伝える食の試み
- ⑩豊嶋めぐみ～町の施設を利用した定期的なポップアップストアの開催と取り扱い商品の紹介
- ⑪宮川幸史～私が感じた 中川町の自然ツアーの可能性
- ⑫志村晋平～アドレスと中川町の取り組み
- ⑬川島源徳～中川牛のハンバーガー
- ⑭反中梨奈～森の未利用資源を活用した「色と香り」の試み～/おうごせん～中川町の魅力発信に向けた広報活動
- ⑮和泉竣也～現在公社で取り組んでいることと今後公社で取組みたい事業について/佐々木樹～公社SNSアカウントの運用について

申込みフォーム
締め切り: 4/1 (水)



「ランニング×中川町」を全国へ。



起業型 反中 祐介

※令和8年3月31日 任期満了

《活動内容》

トレイルランニングを通じたアウトドア事業。健康増進。観光コンテンツ開発。

ムラスポ初！心斎橋にランニング特化の新拠点が誕生

どうも、マルチランニングクリエイターの反中 祐介です。2025年8月からムラサキスポーツが組むランニング事業のディレクターとして関わらせていただいております。その活動の一環として12/12にムラサキスポーツとして初となるランニング分野に特化したライフスタイル提案型新店舗「ムラサキスポーツ 大丸心斎橋店」をオープン。12/11にはプレオープンイベントとしてトークショー、グループランニング、パーティーを実施しました。イベントはタンナカが監修したのですがメディアやスポーツブランド、インフルエンサー、タレント、地域コミュニティなどなど多種多様な方が参加してくれました。(総勢約70名！)トークショーではタンナカのランニングを楽しむコツや拠点にしている中川町の話などさせていただきました。SNSなどで頻繁に中川町についての発信をしているので多くの参加者が中川町について認知してくれていたのはとても嬉しかったです。

広がる「中川」の輪。スポーツから地域を盛り上げたい

また、オンというスイス発の世界的なスポーツブランドの元社長である駒田博紀さんという人が現在はYellow Monkey Brewingという会社で多様なクラフトビールを展開しているブルワリーが今回のイベントに協賛してくれたのですが、なんとこのブルワリーも横浜にある「中川」という地名に拠点を構えているのです！これも面白いご縁だなと感じているので中川繋がりで何か一緒に面白いことをやりたいと考えております！※Yellow Monkey Brewing内で提供される料理に中川町の横山牧場の羊肉の取り扱いが始まりました！今回のようなムラサキスポーツのランニング事業は今後全国で展開していきます。ランニングのイメージが全くないムラサキスポーツがランニング事業に参入するという話題はランニング業界的にもかなり大きなニュースとして取り上げられているので、ぜひチェックしてもらえたら幸いです。スポーツ関連や健康についてなどなど力になれることはあるかなと思いますので、何か気になることがあればお気軽にご相談ください！！



※私自身の活動についてはInstagramで公開しておりますのでぜひチェックしてみてください。



●反中 祐介



●bigfoot trail works



「美食の町・中川」を目指して。 アウトドアと食が奏でる特別な体験



起業型

鈴木 謙友

《活動内容》

中川を拠点とした商
活動、町内イベント
の装飾請負、子ども
向けキャンプイベン
ト催行など

冬の静寂と焚火の温もり。五感で楽しむ贅沢なランチタイム

前回の広報に引き続き、アウトドア起点→飲食のお仕事の紹介を。2026年2月、本州からお越しのお客様に焚火ランチを提供しました。天気には恵まれましたが、やはり2月の屋外。調理して提供するまでに猛スピードで料理が冷めてしまいます。そのため、小屋を借りての屋内提供としました。食前・食後は焚火を囲んでもらい談笑。場所柄、道路からも離れており車などの人工音も無く、野鳥の鳴き声と焚火のパチパチとはぜる音が耳触りの良い、穏やかな時間を過ごしていただきました。

新チーム「ナカガワフードコート」始動！食で町外客を呼び込む

また、昨年末より中川町産食材や道北食材を主としたフード提供を目的にチームを結成。当方を含め3名、現協力隊員の川島くん・ト部くんとともに、【ナカガワフードコート】という看板を掲げ活動を開始しています。1月は「なおバー」でのLIVEイベントへのフード出店、2月には「きこり祭り」への出店、3月は現協力隊員・田辺さん主催の写真展会場での出店。4月は一旦お休みで、また5月以降に町内での出店やイベントを企画して参りますので、まだお越しになったことのない方も是非気軽に足を運んでいただけますと幸いです（お料理に関してはテイクアウトも可能です！）。



既に美味しい料理を提供する飲食店は町内にいくつもありますが、私個人としてもチームとしても引き続き飲食イベント（アウトドアの要素と取り入れた）などを拡充させていき、町外客が中川に来る・来たくなる動機付けの一助になること、また、大げさな言い方かもしれませんが、現在進行中の町産チーズやピクルスなども含めて【中川町＝美食の町】という印象を持ってもらえるような食体験の提供と対外的な発信に努めてまいります。

任用型 オウゴセン

《活動内容》
インバウンド向けの
観光発信、観光協会
事務仕事



日台と地域を繋ぐ。
中川町の新たな魅力を創る

デジタル技術で越える言葉の壁。 日台の小学生によるオンライン交流

こんにちは！ミシェルです。前回の特別号からこれまでの数ヶ月間における、協力隊の活動報告をさせていただきます。

昨年12月、中川町立中央小学校の4年生と、台湾の花蓮県玉里鎮にある「源城小学校」とのオンライン交流を企画しました。テーマは「私のふるさと」。言葉の壁を越えるため、生成AIによる自然音声対話技術を活用し、リアルタイムでお互いの言葉を理解できる工夫を取り入れました。地元の祭典や学校生活の違いに触れ、子どもたちは目を輝かせて聞き入っていました。中川町の子どもたちが異文化に触れる機会を創出できたことは、私にとっても非常に意義深い経験となりました。



協力隊の専門性を集結！中川町の魅力を詰め込んだモニターツアー

もう一つの大きな活動は、3月12日から14日までの3日間にわたるモニターツアーの実施です。現在、協力隊にはアウトドアガイド、鹿の解体、地元素材を活かした料理など、専門分野で活躍する個性豊かなメンバーが揃っています。こうした素晴らしいリソースを繋ぎ合わせ、正式な観光ツアーとして商品化することで、より多くの方々に中川町を訪れてほしいと考えています。

今回は中川町を訪れたことのある台湾人2名と日本人1名を招待し、ワインテスティングや森の散策、エゾシカの精肉ワークショップなどを行いました。協力隊の隊員たちが個々の能力を地域の特色と結びつけ、中川町を盛り上げようと奮闘しています。仲間たちと一緒に活動できることを嬉しく思うと同時に、これからも中川町の魅力を世界へ届けていきたいです。



課題解決型

中村 吏智

《活動内容》

酪農ヘルパー業務
をしながら、チー
ズ工房設立に向け
て準備中。



酪農の現場を支え、チーズの香りを全国へ。 現場支援と情報発信の両立

酪農ヘルパーとしての活動：安全第一で繋ぐ地域の生業

当期間中、中川町内の酪農家さん11軒において、計64回の酪農ヘルパー業務に従事しました。冬期のヘルパー業務においては、早朝の除雪作業が入る前に牧場へ向かうことが多く、例年であれば路面の積雪により車両が立ち往生し、牧場へ辿り着けないといったトラブルが少なくとも一度は発生します。しかし、今年は降雪量が少なかったこともあり、移動時のトラブルは発生しませんでした。結果として、農協の皆様を含め、期間中を通じて無事故で業務を遂行できたことは大きな成果です。今後も安全管理を徹底し、中川町酪農のサポートに努めてまいります。

QUESERIA FAROとしての活動：一通の資料から広がる中川町の認知

チーズ工房の活動におきましては、町外のお客様へ向けて50件以上のチーズを発送いたしました。その際、「中川町」の記載が入った工房の資料を同梱してお届けしています。この取り組みにより、資料を受け取ったお客様がSNS等で発信の際に中川町の名前が掲載されることが多く見受けられました。当工房の活動が、中川町を知っていただく一つのきっかけを作れているのではないかと考えております。

現在、お客様の口コミを通じて当工房の認知度が段階的に広がりつつある状況です。この良い波を持続的なものにするため、単に反響を待つだけでなく、別の角度から新たな波を起こすような次なる展開を実行していきます。

酪農ヘルパーとしての中川町酪農支援と、QUESERIA FAROを通じた中川町の発信の両面において、引き続き尽力してまいります。今後とも変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



はじめまして。
FARO（ファロ）と申します。
北海道・中川町という小さな町で、
自分たちの手で作っているナチュラルチーズです。
土地の空気や季節感をそのまま映したような、農村で、
でもどこか印象に残る味わいを目指しています。
通内のチーズ工房でチーズ製造に携わった後、
2024年秋、スペイン・ガリシア州へ留学に行き、
チーズ製造を学びました。
本場の技術と空気感を大切にしながら仕上げています。
日本でたったひとつのスペインチーズ製造所を作ろうと奮闘中で、
今は開業準備をしています。
もし少しでもご興味を持っていただけたら、とても嬉しいです。

QUESERIA FARO
出水知美 中村吏智

チーズ作りのコンセプト

- 自然のおいしさ
森林面積66%、静かな自然に囲まれた中川町。天恵川の恵みと大地の力が育む牧草主体の生乳。その味わいはとってもあっさりして、優しい味があります。
- おどろきと楽しさ
乳の質も味もちょっと変わっている。フクロのチーズ。そのまま楽しんだり、旬の食材と組み合わせたり。味わうたびに新しい発見をしてみてください。
- やさしい幸せ
丁寧に乳脂を分離させて生まれる。豊かな香り。おいしさがじんわり広がって、心と身体がほっとする。そんなやさしい幸せを感じていただけたら、私たちも幸せです。

「製品」への一步。

チーズ作りの壁と挑戦



起業型

出水 知美

《活動内容》

中川町産生乳を使った、チーズ・乳製品製造の工房を立ち上げるために相方の中村吏智と準備中。

「作って売る」：製造者としての責任と覚悟

町民の皆さま、こんにちは。年明けからいろいろと進捗がありまして、ご報告いたします。来年の工房設立に向けて、販売実績をとる必要性が出てきました。現在は自前の工房が無い状態で、どう販売実績を積むかが課題でした。チーズを販売するには、乳製品製造業の許可の取れた施設で製造する必要があります。ありがたいことに、知り合いの興部町の乳製品加工場に声をかけていただき、「販売できるチーズ」の製造を開始しました。

原料乳・使用機材・環境がこれまでとは大きく異なり、かつ仕込み量は今までよりはるかに多く、適度な緊張で製造に取り組んでいます。生乳は正直なので、異変を嫌います。数回試作を繰り返し、やっと反応が掴めてきました。そして一番大きな違いは、現在作っているものは「製品」であるということです。今までの「試作」とは全く違います。お客様がお金を払って買う、その責任を常に持つことが求められます。また作るだけで終わりではなく、その前後の仕事も重要で、手作業である以上、良いことも悪いこともすべて製品に現れます。タフさと丁寧さを併せ持ちたいと思います。

「お客様の声」：イベント出店で見たブランドの可能性

中川町の「きこり祭」、旭川市の「フェルミエチーズフェスタ」にイベント出店しました。私たちの工房「ケセリアファロ」はまだブランドとしての認知が高くありません。まずは食べて、味をしっかり理解した上で購入していただきたいという想いで多くの方に試食をしていただきました。「おいしい」「牛乳の味がする」チーズを使った料理の写真「どんな食材に合わせるか、想像するだけでワクワクする」という嬉しいお言葉をたくさんいただきました。今後、町内や近隣市町村でのイベントでチーズを販売する機会も増えていきますので、お気軽に立ち寄っていただけると嬉しいです。



東京から中川町を売る。 ～ コッペパンの販売 ～



起業型 伊東 淳一

《活動内容》

蝦夷鹿の有効活用から始まり、道北地域の未活用資源の活用を実現する為、町内に加工所を取得。特産品の開発を進行中

世田谷から広がる中川町の認知。リピーターに支えられた地力の向上

前回のご報告では2025年11月から、東京 世田谷区にある「ナカガワのナカガワ」で、地域産品を活用したイベント販売を開始したことをお伝えしました。地域の未活用資源を首都圏で告知宣伝して『中川町』を知っていただく、味わっていただくことはとても重要と捉えており、一般的に好印象の北海道のイメージを、より具体的に体感していただけるキッカケになると考えています。また僕らが協力隊を卒業した後も、中川町にしっかり軸足を据えて生活していけることにも繋がります。引き続き12月、1月、2月と開催させていただきました。当初は単日営業でしたが、1月からは3日間営業、3月は5日間営業を予定しており、回を重ねるごとにリピーターのお客様も増えてきて、少しずつですが地力をつけさせていただいています。イベントを実施した日は来場者も増加し、お店全体の売上に貢献できるようになってきました。一つの市町村が単独で首都圏にサテライトショップを運営している、とてもありがたい仕組みを効果的に活用させていただき、道北地方の『奥道北 中川町』という首都圏の皆さんには目新しい北海道の新たな価値を創造し皆さんに体感していただける様に尽力します！

コッペパンがつなぐ地域の食材。旧さんかいらく工場の活用と今後の展望

『コッペパン』というカタチは、地域開発振興公社や他の協力隊と協議し、手軽に食べられる食として考案しました。四季折々の食材を挟めるため中川町の資源と相性が良く、一番人気の「エゾシカ肉のほろほろ煮込み」は協力隊のト部くんが仕留めた肉を使用し、ジビエを手軽に楽しめると好評です。他にもホッケフライなど首都圏の方が興味を持つ食材を揃え、少しずつ「中川町の味」を確立させていきたいです。今後の展望としては、令和8年度から惣菜加工免許を取得し、地域未活用食材を中心に小ロットからの製造を開始する予定です。これにより、今までイベント等のスポット販売のみだ

2026年4月	2026年5月	2026年6月	2026年7月	2026年8月	2026年9月	2026年10月	2026年11月	2026年12月	2027年1月	2027年2月	2027年3月
惣菜加工免許取得準備					惣菜加工開始						
白樺樹皮					シヤケ			飯寿司			
山菜					キャベツ・ジャガイモ・カボチャ						
ハーブ					ハーブ			エゾシカ			

った商品もより広い販路での展開が可能になります。課題は山積していますが、上京の機会を活かした積極的なアプローチを続け、中川町に根ざした活動を広げていきます。

←来年度のスケジュール

大工が手掛ける宿「木雨^{きう}」始動。



つくる、迎える。

空き家を再生した一棟貸しの宿。SEの経験も活かした自作の拠点

こんにちは。中川町で大工として活動しながら、宿泊業の開業に向けて歩みを進めている中村です。2025年12月から2026年2月末までの活動内容をまとめましたので、ご報告いたします。1月中旬、宿泊施設「木雨（きう）」を無事にオープンいたしました。本物件は長年空き家となっていた旧職員住宅で、令和7年春に入札にて取得したものです。大工としての知見を活かし、自ら改装を手がけてまいりました。また、前職のSEの経験を活かし、AIを活用しながら、ホームページも自分で制作しました。現在は、楽天トラベル等の予約サイトとのシステム連携や、清掃・管理体制の構築といった運営の効率化に励んでおります。現時点での宿泊利用はまだ緩やかですが、雪解けとともに訪れる春の行楽シーズンを前に、SNS等での情報発信と宣伝活動を本格化させていく予定です。



メディア掲載と大工仕事の進展。形になり始めた「二つの活動」

2月25日発売の北海道のライフスタイルマガジン「northern style スロウ」86号に、私の中川町での暮らしや活動を取り上げていただきました。見開き3ページという大きな紙面でご紹介いただき、大変光栄に感じております。この記事を通じて、町外の方々に中川町の魅力や私たちの取り組みを知っていただける良いきっかけになればと願っております。

また、この期間、町内で2件の現場が動いております。そのうち1件の内装工事は無事に施工を完了し、お引渡しを済ませております。もう1件についても、3月末の引き渡しに向けて現在最終的な仕上げの段階に入っております。大工としての「つくること」と、宿泊業としての「迎えること」。ようやく両輪での活動が形になりつつあります。今後もものづくりと場づくりに邁進してまいります。



Official Site

起業型
中村 直弘

《活動内容》
中川では、宿を開業
する予定です。

森の香りを形に。



任用型 反中 梨奈

《活動内容》
役場地域振興課に配
属され観光振興やふ
るさと納税を担当



トドマツ蒸留と町を彩るイベントの準備

捨てられる枝葉に命を吹き込む。トドマツ精油への想い

私が蒸留に興味を持ったのは、昨年秋の薄荷（ハッカ）の蒸留体験がきっかけでした。植物から純度の高い香りが抽出される工程を知り「自分でもやってみよう」と決意。町内で活動していた協力隊の先輩が残した蒸留器をお借りして、現在はトドマツの蒸留に取り組んでいます。活用しているのは、クリスマスのリース作りで余った枝葉や2月の暴風の影響でやむなく切られてしまった枝葉です。そのまま時間が経てば捨てられてしまう〈森の落としもの〉を拝借して、コツコツと精油のサンプル作りを進めています。今年は、ワークショップを開催できればと考えています。香りを形にして皆さまにお届けできるよう、今後も試作を重ねていく所存です。



協力隊大報告会から観光列車まで。町の「今」を支える活動

2月は《天塩川 春・発信inなかがわ》や《きこり祭》の設営準備に参加しました。現場での作業を通して、町の伝統行事を支える仕組みを学んでいます。また、現在は4月4日（土）に開催する「第3回中川町地域おこし協力隊大報告会」に向けて、ミシェルさんと共に事務局として準備を進めています。今回の大報告会では、現役の協力隊員がどのような背景で活動し、現在どのようなプロジェクトに取り組んでいるのかを前回とは異なる形式で直接お伝えする予定です。隊員の「今」を知っていただける機会となりますので、ぜひお気軽にご来場ください。そして、5月はいよいよ観光列車【花たびそうや号】が天塩中川駅にやってきます。今年も、食や体験を交えた楽しい企画の話し合いが進められています。5月9日からの毎週土曜日、駅でお会いできるのを楽しみにしています。



起業型 田辺 信彦

《活動内容》道北
の自然を写真で発信、
自転車アクティビティー開発、
中川町で道産食材の飲食
業起業。



田辺 信彦
写真展
「軌跡」

会期:2026年3月4日(水)~3月8日(日) 午前9時~午後5時
会場:天塩中川駅交流プラザ
入場無料



世界を巡り、中川を写す。

国内外で広がる撮影の仕事。写真展で伝えた移住からの歩み

令和8年1月から3月の期間は、写真家としての撮影の仕事が少なくなる時期でした。しかし、令和7年のこの時期に北海道で行った活動の成果もあり、今年は昨年以上に多くの撮影の仕事をいただくことができました。町内では、昨年に引き続き「きこり祭」のポスター撮影、音中道路開通イベントの撮影、中川町サテライトショップ「ナカガワのナカガワ」用イメージムービーの撮影などを担当しました。町外では、アメリカの保冷ボトルブランド MiiR のグローバルプロジェクトの映像を長野県・野沢温泉で撮影し、また10年以上続けている作品プロジェクト「CROSS IS HERE」として、オランダで開催されたシクロクロス世界選手権の撮影も行いました。さらに、3月4日から3月8日には、JR天塩中川駅駅舎内交流プラザにて写真展「軌跡」を開催しました。地域おこし協力隊として中川町へ移住してからこの地を拠点に撮影してきた作品、中川町や道北の自然、そして世界各地で撮影してきた写真をまとめ、僕自身についても知っていただけるよう構成した展示です。多くの方にご来場いただき、作品を通して交流する貴重な機会となりました。



キッチンカー始動へ。

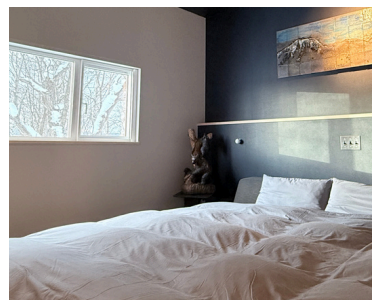
本場ベルギースタイルのフライドポテトを届ける

また、中川町を拠点に写真とは別に取り組んでいる、ベルギースタイルのフライドポテトを提供する飲食事業「ホッカイドーフリッツクラブ」についても、春夏以降の本格稼働に向けてキッチンカーの取得とカスタムを少しずつ進めています。並行してポップアップ出店も行っており、旭川のビアバー HUG で開催されたイベントにも出店しました。



起業型
橋爪 啓吾

《活動内容》
ゲストハウス運営
Teshio Nakagawa
Vacation House



心ほどく滞在と創作。

TeshioNakagawa Vacation Houseの静かな時間

日常を離れ、自分を整える。多様な過ごし方が広がる宿泊拠点

中川町の静かな風景の中に、そっと寄り添うように佇む一棟貸しの宿泊施設「TeshioNakagawa Vacation House」。窓から差し込むやわらかな光と、木の温もりを感じる落ち着いた空間が、訪れる人の心をゆっくりとほどこしてくれます。オープンしてから少しずつ利用者も増え、観光で訪れる方だけでなく、帰省時の滞在や町内での気分転換の場としても、ご利用いただく機会が増えてきました。施設内には広々とした寝室やヴィンテージ家具を配したリビングがあり、ご家族やご友人と肩の力を抜いて過ごせる空間が広がっています。キッチンでは地元の食材を持ち寄り、食卓を囲みながらゆったりとした時間を過ごすことができます。宿泊に加え、数時間から利用できるデイユースプランもあり、ワーケーションや創作、打ち合わせ、小さな集まりなど多様な用途でご利用いただいています。



自然を纏うデザイン。滞在と創作がゆるやかに重なる場所

また、この場所で感じる中川町の自然は創作活動にもつながっており、中川町に自生する葉をモチーフにしたフーディーやパンツの制作も行いました。自然の形や流れをそのままデザインに落とし込み、この土地の空気感を身にまとうような表現を大切にしています。滞在と創作がゆるやかに重なり合う点も、この施設ならではの特徴です。四季折々に表情を変える中川町の自然の中で過ごす時間が、日々の忙しさから少し距離を置き、自分のリズムを整えるきっかけになればと考えています。町外から訪れる方の滞在拠点、そして町民の皆さまにとっても身近に利用できる空間として、これからも静かに開かれた場所であり続けたいと考えています。





起業型

宮川 幸史

《活動内容》

地域の環境・観光コ
ンテンツの
開発と飲食店舗の起
業を目指す。



自然の恵みを未来の資源に。 フィールド調査と事業基盤の構築

冬から春へ。天塩川流域と森林エリアでのフィールド調査

1～3月にかけては、冬期から雪解け期への移行に伴い、町内の自然環境および動植物のフィールド調査を継続して実施いたしました。天塩川流域や森林エリアを中心に巡回し、野鳥の動向や動物の痕跡、積雪下からの植生の萌芽状況などを確認・記録しております。また、春先に発生する山菜（ふきのとう、行者にんにく等）についても発生状況を観察し、季節変化に応じた自然資源の特性把握に努めました。これらの調査結果は、今後の自然体験プログラムの構築や地域資源の活用に向けた基礎資料として活用してまいります。専門性向上の取り組みとしては、北海道大学中川研究林の認定ガイドプログラムの経験を踏まえ、森林生態系に関する基礎知識、安全管理、リスクマネジメント等について理解を深めました。これらの知見を生かし、自然体験事業の実施体制強化および安全性の向上につなげてまいります。



地域資源を「食」へ。自然体験と飲食店開設に向けた準備

さらに、町内イベントへの参加を通じて住民の皆さまと交流し、地域資源の魅力や活用可能性について意見交換を行いました。同時に、町内での飲食店開設に向けた準備として、地元食材や季節食材の活用方法について検討を進め、山菜をはじめとした旬の食材を生かす地域循環型の食提供モデルの整理も行っております。本期間は基礎調査および事業準備の段階ではありますが、自然資源への理解を深めるとともに、次年度以降の事業展開に向けた基盤づくりを進めることができました。今後は、自然体験プログラムの具体化と飲食拠点整備を同時並行で進め、交流人口の拡大と地域経済への波及効果の創出を目指してまいります。



起業型 川島 源徒

《活動内容》

ハンバーガーショップ
開業を目指し、現在は
交流プラザで販売中。
今後はイベント等にも
積極参加予定。

ハンバーガーから広がる食の輪、 仲間と共に中川町を盛り上げる

交流プラザでの継続営業と「ナカガワフードコート」の始動

11月から12月の5週間にわたり交流プラザをお借りして営業しました。木曜日、金曜日でお昼時にハンバーガーを販売していました。最近では、いつもきてくれるお客さんが増えてきてとても嬉しく思います。最後の週は久しぶりにサンドイッチも販売しました。ここまで連続して営業したことはありませんでしたが、毎週お客さんが来てくれたので自信になりました。最近では、ナカガワフードコートという名前で同じ協力隊、鈴木さん、ト部さんと3人で飲食提供しています。僕がハンバーガー、ト部さんが鹿料理、鈴木さんがドリンク、前菜メニューを主に提供しています。今後3人で出店することも増えていくと思います。一人ではドリンクまで手が回りませんでしたが、お酒やつまみを提供してくれる相方がいるので、夜の営業も多くなりました。自分ひとりではこなかったお客さんも来てくれることが増えたのでとても嬉しく思います。これからも3人で中川町を盛り上げていきたいと思っています。

夜の営業から冬のイベント出店へ。1年を振り返りさらなる挑戦を

11月末、12月中旬にはナカガワフードコートとして交流プラザを借りて営業しました。また、問寒別のバスの居酒屋メモトックさんも出店して夜の営業しました。お酒を飲むお客さんが多かったのでいつもと違う雰囲気でも楽しく営業できました。1月末はなおバーで開催されたバンドイベントにも出店しました。今回で2回目の開催となり昼と夜の2部営業で昼は中学生のDJもありとても盛り上がりしました。2月はKIKORI祭りに出店しました。このお祭りは去年僕が初めて町内もお祭りに参加したお祭りで、それから1年がたったのかと思うととても早かったなと感じます。これから町内のお祭りも増えてくるのでこれからも頑張りたいと思います。



DIYで広がる関係人口。 ADDress拠点づくりへの挑戦

手作業で深まる交流。多様な人々が関わる新しい中川町の拠点

皆さま、こんにちは。地域おこし協力隊の志村です。
今期、私は「ADDress」の住宅物件の開発に注力いたしました。今回のプロジェクトの大きな特徴は、DIYで物件を作り上げることです。難しい躯体の部分は工務店の方にお任せしましたが、面積の大きい床貼りと壁塗りについてはDIYで行いました。作業を通じて関わる人を「関係人口」として迎え入れ、町の関係人口を増やしていくことが、本プロジェクトの狙いです。

2月には2回のワークショップを開催し、多くの方々のご協力により物件を完成させることができました。

1. 2月17日：床貼りワークショップ

ADDress会員1名と町内の方々約9名が参加し、床貼りを行いました。

2. 2月28日：壁塗りワークショップ

町外の方、ADDress会員、日本大学のインターン生、町内の方など、多様な所属の方々16名が集まり、壁塗りを行いました。

参加された皆さまが同じ作業を共にすることで、自然と交流が深まり、「また来たい」という感想を多くいただきました。これこそまさに、ADDressと中川町が目指していた形だと考えております。私は今回、アテンドやイベントの企画・運営を担当いたしました。
来年も新たに1物件の展開を予定しています。このような仕組みをさらに広げ、取り組みをより大きくしていきたいと考えています。

起業型

志村 晋平

《活動内容》

中川町の空き家を
ADDress住宅に転換
して、関係人口を増
やすプロジェクトで
活動しています。



アドレスHP→



起業型

豊嶋 めぐみ

《活動内容》

衣料品や雑貨などを扱うセレクトショップの開業を目指す。

古着と仲間が作る笑顔の輪。

1週間のポップアップショップ開催

多彩なゲストと盛り上げた「DOUBLE ARMS PLUS」の1週間

前回の特別号からあっという間に三か月。年を重ねるごとに月日が急速に過ぎていくことに驚きながらも、充実した日々を送らせていただいております。今回の特別号では、1月26日～2月1日に天塩中川駅交流プラザにて1週間【DOUBLE ARMS PLUS】と称し、私のショップをメインとして、プラスαという形で開催したイベントについてご報告させていただこうと思います。

私のショップDouble Armsは1週間のPOP UPショップとして出店し、また日ごとに協力をお願いし、飲食ではhungryman（協力隊 川島源徒さん）、Bar El Rinconcito（市村修二さん・正江さん）、7%Kitchen（問寒別）、中川食べるかいの皆様、物販ではRENKA（協力隊 平塚映子さん）、ワークショップには木工ワークショップ（木工ノビタキ 原麻耶さん）、タイ古式マッサージ（協力隊 志村晋平さん）と、様々な組み合わせで開催しました。全体的に多くの方々にご来店いただき、楽しんでいただけたのではないかと思います。出店者・お客様共に笑顔があふれる空間になっていたことがとても嬉しく感じました。



冬の挑戦で見えた新たな課題。実店舗オープンへの一歩

過去2回企画したイベントは週末のみの開催でしたが、今回は平日も含めた冬期1週間という、天塩中川駅交流プラザではなかなかない期間設定で開催しました。今後の実店舗オープンという目標に向けて、新たな課題が見えてくるきっかけにもなり、大変勉強になりました。道北エリアは積雪量も多く、冬期は集客がなかなか難しい状況ではありますが、今後も引き続き様々な趣向でPOP UPショップを開催し、古着の魅力や商品の面白さを多くの方々に知っていただき、中川町を盛り上げていきたいと思っています。もう少し暖かくなった頃には、町民の方々にもご参加いただけるフリーマーケットも企画していく予定です。



課題解決型 和泉 竣也

《活動内容》

中川町地域開発振興
公社で特産品・観光
コンテンツの企画開
発を通じ、関係人口
の拡大に取り組んで
います。



観光の未来をコーディネート。

中川町の「人」と「素材」を活かした体験創出へ



プロから学ぶトラベルの真髄。中川町のポテンシャル！

皆さんこんにちは！(株)中川町地域開発振興公社で活動している和泉です。今回は、「全国薬草フェスティバル in ひだ2025」と「2025台北国際旅行博」での様子を報告させていただきました。その経験を経て、現在は「中川町の自然資源と人の力を活かした観光コンテンツの創出」を目標に活動しています。地域に点在する魅力の一つの価値として束ね、訪れる人に届けるために欠かせないのが「トラベルコーディネーター」という役割です。その真髄を学ぶため、知床ねむろ観光連盟事務局長として道東でアドベンチャートラベ

ルの最前線に立つ、佐々木 亮介さんを中川町にお招きし、実践に基づくお話を伺いました。当日は、旧町営牧場を舞台にしたスノーシュー体験からスタート。地域おこし協力隊の志村さんの案内で、町内を一望できる高台を目指し約1時間半のハイキングを行いました。澄んだ空気の中でお茶を囲みながら、牧場の歴史や自然環境について語り合う時間は、まさに中川町らしいひととき。徒歩圏内で気軽に自然体験ができる環境や、20名の協力隊それぞれが独自のコンテンツを持つ現状に対し、「すでに“人”と“素材”がそろっているのが羨ましい」と佐々木さんから評価をいただきました。

地域資源と「人」を掛け合わせ、中川町ならではのリトリート体験を形に

午後は、観光推進のフェーズに応じたコーディネートの重要性について講義をしていただきました。磨き上げた体験コンテンツを組み立て、受入体制を整え、ツアーにまとめていくのがコーディネーターの役割です。特に「旅行者とコミュニケーションをとって要望を引き出すこと」や「地域を熟知し、まとめあげること」の2点が重要だと佐々木さんがお話してくれました。その言葉を受け、これからその役割を自分が担っていきたいと考えています。天塩川や広葉樹林、野草やハーブといった地域資源と、町民や協力隊という“人”を掛け合わせることで、中川町ならではのリトリートコンテンツを磨き上げていきたいと考えています。中川町の可能性をさらに引き出し、「ここにしかない体験」を形にしていく挑戦は、これからが本番です。



起業型 平塚 映子

《活動内容》

旧三箇邸で昭和レトロなアンティークショップ兼喫茶店を開業。鉄道模型ジオラマ館併設予定。町イベント時の救急看護も担当。

冬の駅に咲いたリユースの花。 歴史を刻む空き家で紡ぐ新たな希望

【連花舎】が彩る天塩中川駅。中川マダムに届けたリユースの輝き

冬の恒例、ラッセル車が停まる1月31日と2月1日の2日間、天塩中川駅交流プラザで中川マダム向けの高級洋服リユース・リサイクルショップのイベントを開催しました。



私の店名【連花舎】は、連なって咲く花の意味を込めて連花舎と名付けました。たくさんの花のような中川マダムにリユースの洋服を手にとっていただき、大盛況となりました。ありがとうございました！



築65年の記憶を呼び覚ます。旧三箇産業跡地で進む喫茶店づくり

旧三箇産業跡地で計画中の、喫茶店兼アンティークリサイクルショップ【連花舎】の内部解体と残置物の搬出を行いました。荒れ果てていた築65年の空き家を整えると、当時の中川町の木材で造られたと思われる柱や壁の味わいがよく、ノスタルジーあふれるとても良い空間が姿を現しました。小さな屋根裏部屋も発見され、さて、どのように造っていかうかとワクワクしています！



起業型

橋爪 淑子

《活動内容》

サテライトショップ
と中川町関係人口増加
作戦を遂行。
空家対策不動産事業。
茶道、ワイン、日本酒
講座開催。



宗谷本線沿線の可能性を拓く！ 「商談会・産地視察ツアー」実施

首都圏の専門家が中川町を視察。地域の資源をスペシャリストの視点で評価

2月21日から23日の3日間、中川町・音威子府村・幌延町の3町村が連携し、地域の宝物である「産品」の価値を再発見するための視察・商談会を地域振興公社とともに企画・運営いたしました。今回お招きしたのは、日本を代表する百貨店「三越伊勢丹グループ」の専門家2名です。商品デザインやメニュー開発、企業向けギフトを扱うスペシャリストの視点から、私たちの町の資源を評価していただきました。一行は、旭川での砂澤ビッキ展の訪問に始まり、中川町では迫力ある「きこり祭」を視察。地域の文化や厳しい冬の暮らしが生み出す資源を肌で感じた後、3町村の特産品を集めた商談会に臨みました。商談会では、希少な鹿肉や木材などの素材を単に売るのではなく、いかに「ここでしか味わえないリッチな体験」として届けるかについて、多くのヒントをいただきました。

素材と物語を掛け合わせブランド化へ。中川町の「本物の価値」を全国へ

「中川町ならではの」の価値を高める助言として、町産のそば粉ガレットに鹿肉を合わせるなど、地元食材同士の組み合わせによるブランド化や、工芸品における「二つの物語」の創出が示されました。誉平焼・夢創窯の陶芸家が焼いたカップに木工家のソーサーを添えることで、デザインに深みが生まれます。また、切り株スツール等の都会の需要に合わせたカスタマイズや、産地を絞り込み物語をデザインで伝える戦略も提案されました。そばの実のシリアルバーやお酒に合う「大人のおつまみ」など、ギフトや株主優待に適した展開も期待されます。今回の視察を通じ、生産量の限界を「希少価値」という強みに変える大切さを再認識しました。今後はいただいた助言をもとに商品開発に着手し、完成した商品は東京のサテライトショップにてご紹介いたします。中川町の「本物の価値」を全国へ届ける新たな挑戦です！

エゾシカの魅力を一皿に。 屋号「悠鹿」^{はるか}と仲間の支え



**nakagawa
food court**



協力隊の層の厚さを実感。ナカガワフードコートでの学びと挑戦

昨年の8月、協力隊（起業型）として恵庭市から参りました。『食と体験』というテーマのもと、屋号「悠鹿（HARUKA）」として事業を開始し、町内外でエゾシカの捕獲、処理、販売等を主な事業内容としています。エゾシカ肉の魅力をより早く、多くの町民の皆様にご覧いただくために、ナカガワフードコートとして、自ら調理、提供を行う機会をいただきました。昨年、食肉処理・販売業としてのベースづくりを終え、多くの方々に販売させていただくことができました。12月に発足したナカガワフードコートでは、駅舎での臨時営業やイベント出店を行いました。一人では出店まで踏み出せずにいたところ、経験豊富な先輩方と一緒に出店でき、中川町で活動する協力隊の層の厚さと、この町にきた意義を改めて感じました。出店を通し、料理提供の楽しさや楽しさなど多くを学ばせていただきました。

未来へ繋ぐ「有害駆除」と「特産品開発」。次なる目標への歩み

今後は体験型の観光コンテンツにも挑戦し、夏に向けた鹿肉の在庫確保にも集中する必要があります。令和7年度はふるさと納税の返礼品にエントリーすることができなかったため、令和8年度中にはエントリーできるよう、商品づくりなど準備を進めていきます。また、4月からエゾシカの有害駆除にも協力させていただけることになりましたので、次号（夏）では駆除や猟友会との連携、エゾシカ被害の軽減に繋がるような活動をご紹介できるよう頑張りたいと思います。もちろん、ナカガワフードコートでの出店等も今後増えていく予定ですので、エゾシカ肉の調理・提供等に関してもより積極的に取り組んでいきたいです。食材としては、エゾシカに限らず、季節に応じて幅広く扱う予定です。



エゾシカラーメン

起業型

ト部 悠人

《食と体験》というテーマのもと、狩猟や解体、精肉販売、料理提供等によるジビエの普及活動はもちろん、狩猟体験ツアーも計画中です

課題解決型 佐々木 樹

《活動内容》

中川町地域開発振興公社で特産品・観光コンテンツの企画開発を通じ、関係人口の拡大に取り組んでいます。



中川町の「人」と「素材」を活かした体験創出へ

公社公式Instagramの運用再開とミッション

みなさんこんにちは。2月に任用されました、地域おこし協力隊の佐々木樹です。私は「課題解決型」の協力隊員として、中川町地域開発振興公社で働いています。

この特別号をご覧のみなさんは、新聞・テレビ・ラジオ・SNSなどで、定期的に中川町の情報に触れる機会がありましたでしょうか。

私に課せられたミッションは、「中川町における情報発信の強化」です。さまざまな媒体を活用し、中川町の特産品・観光・イベントなどを、継続的に道内外へ発信していくことを目指しています。

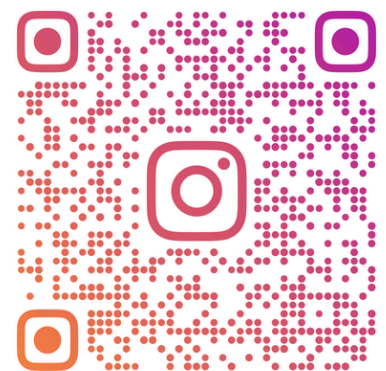
任用後まず取り組んだのは、しばらく更新が止まっていた公社公式Instagramの運用再開です。公社で取り扱う商品の紹介、勤務の様子、町内の何気ない話題まで、幅広く投稿しています。

継続が生む成果。インターン滞在記とこれからの展望

最近では、公社がインターンとして受け入れた日大文理学部の学生による町内滞在記の更新にも力を入れました。学生たちは町内で活躍する方々にお話を伺い、ときには体験をしたり、味わったり…。その様子を写真とともに“読み物”として投稿しています。

「いいね」数や閲覧数は各SNSで確認・分析できますが、ありがたいことに（一部の共同投稿を除き）閲覧数は1,000前後で推移しています。しかし、決して十分な数字とは言えず、分析を進めると閲覧者の多くは中川町周辺で、次いで札幌、旭川、東京・世田谷区が多いという状況です。

再開したばかりのため、すぐに成果が現れるわけではありませんが、継続こそが最も大切なことだと考えています。より多くの方に中川町を知っていただくため、地道に「ナカガワ」を「ソトガワ」へ広げていきたいと思っています。公社のInstagramをぜひご覧ください！



NAKAGAWA_NO_NAKAGAWA



令和8（2026）年4月発行

発行 中川町地域おこし協力隊
中川町地域振興課